

「六甲山頂・森と歴史の散歩道」づくりの広がり

堂馬英二
(六甲山を活用する会)

1. 「森と歴史の散歩道」を生かす段階になった

六甲山上記念碑台周辺で環境調査や保全整備活動を8年続けている。ここ3年間は近畿自然歩道約1キロで不安全個所の改修や山道の整備に取り組み、安全で快適な散策コース「森と歴史の散歩道」を実現した。隣接する「まちっ子の森」は昔の六甲山の里山林を彷彿とする見どころである。6年にわたる「アセビ伐採調査」で1,500平方メートルの調査区で密生アセビ約500本を伐採した結果、コバノミツバツツジが35%を占める明るい森に変貌した。六甲山頂部に伸び伸びと自然体験ができる唯一といえる環境が出現した。

インフラの整備に続いて、「家族でぶらっと六甲散歩」の体験ツアーも定期開催するようになった。集積している「六甲山魅力再発見市民セミナー」の報告書の中から、周辺地域についての部分を生物編と地域環境編に集約し「ガイド用ハンドブック」を作成した。続いて、まちっ子の森で見られる樹木を解説した「まちっ子の森・樹木図鑑」も発行した。さらに二つ池で調査している水生生物の辞典も作成したい。これらによって、「散歩道」を様々な視点から味わえる舞台や材料が整ったといえる。今後は、継続的なメンテナンスと、実際に利用者を増やすことに注力する。



ポンプ小屋付近の改修



「家族ぶら」体験ツアー

2. 「都市山」の本来の魅力は「散歩」だ！

現在、「都市山」六甲山を巡る活動として、神戸市が主導する「六甲山森林整備戦略」と「六甲・摩耶活性化」の2つが柱になっている。前者は森林の再生を目指し、後者は観光の賑わいを作ろうとしている。「森と歴史の散歩道」は前者の森林再生に関しては、市民団体が主導する先駆的な実践例になる。後者について、観光客を多く集めるところは「散歩道」が目指す主旨との違和感も感じる。

当会は、六甲山を市民共有の自然資産として、六甲山麓の市民が関心を高めること、そして日常的に親しむという市民目線を重視している。それは「家族でぶらっと六甲散歩」というキャッチフレーズに凝縮している。六甲山は人の生活感が乏しいリゾート地で、観光客集めの試みはたいてい一過性で終わって根づいていかない。地域の自然と触れ合う「散歩」を楽しむ市民が増えれば、新たな生活文化を醸成する刺激を与えられる。都市山の魅力として「散歩」に脚光を当てたのが大きな特徴といえる。

3. 六甲山の環境整備に「担い手」が求められている

昨年8月の11号台風で表六甲ドライブウェイで崩落個所があり、12月26日までの4ヶ月間も道路が不通になった。広島での土砂災害事故と同様、花崗岩の風化土壌である六甲山は土砂災害が懸念されている。「散歩道」づくりに携わってみて、放置山林が多くを占めており、山道の荒廃も進行しているのを目にする。その保全・整備を行う態勢として、主管行政や山上事業者の力が及ばず、土地の所有者も関与しない。

当会はその間隙を縫って森林ボランティア活動を担ったので、それなりに成果を上げて、賞賛や評価をいただいたようだ。次世代に貴重な自然資産として六甲山を保全していくには、環境整備を他人任せにしないという考え方が必要だ。六甲山の環境保全・整備に可能な範囲で関わっていく市民を募りたい。この「担い手」づくりが、今後の展開を左右する決め手になると考えている。



環境整備活動の協力者

以上